

事業成果報告書

1. 個人または団体名(団体名の場合は代表者名も記入)
田村 恵理 (代表者名:)
2. 研究または活動のテーマ(課題名)
Nick Adams 物語群におけるインディアンの女たちの描かれ方から、Hemingway の言語に対する姿勢を考察する
3. 助成額
400,000 円
4. 実施期間
(応募当初予定) 調査期間: 2013 年 2 月 ~ 2013 年 3 月 学会にて調査成果発表: 2013 年年内 論文にて調査成果発表: 2014 年春まで (現時点での進捗状況、今後の予定) 調査期間: ① 2013 年 3 月 19 日 ~ 3 月 30 日 (調査済) 調査期間: ② 2013 年 8 月 ~ 2013 年 9 月 (予定) 学会にて調査成果発表: 2013 年 10 月 12 日(於:日本アメリカ文学会全国大会) 論文にて調査成果発表: 2014 年春まで
5. 実施状況
2013 年 3 月 19 日~3 月 30 日にボストンに調査に参りました。この調査期間に関してですが、一身上の都合で予定外の事情が発生したため、滞在期間を大幅に短縮せざるをえなくなってしまいました。結果、申請時の予定の半分ほどの日数しか滞在することができず、調査が完全に終わられないまま帰国いたしました。 3 月の調査が不十分に終わってしまったため、この 8 月末から 9 月中旬までの間に、再度ボストンに調査に行き、調査を完了する予定です。 研究成果につきましては、今年度の日本アメリカ文学会全国大会にて研究発表予定です。そのフィードバックを反映して改稿し、2014 年春頃までに論文として投稿をする予定です。 申請時からの変更がありましたこと、深くお詫び申し上げます。

ご理解頂けますようお願い申し上げます。

6. 事業成果と自己評価

2013年3月19日～3月30日のボストンでの調査においては、目的である短編”Ten Indians”の草稿の数バージョン、そして Hemingway の高校生時代の作品”Sepi Jingan”を閲覧し、データとして残すことができました。その過程のなかで、Indian のキャラクターの登場する短編作品の草稿をひとつひとつチェックする必要性を感じました。

しかし、この作業は、上記にご報告しました滞在期間の短縮のため、中断して帰国せざるをえなくなりました。この点について、今後なんとか挽回したく願っております。この為、2013年8月～9月にかけて再度調査に渡米することを希望しております。

研究発表につきましては、日本アメリカ文学会全国大会での発表の機会を得ることができました。基金を賜りました御恩とこの機会を頂けたことに感謝し、充実した内容に仕上げられるよう、努力したいと思います。